

最近小児外科領域でもよく用いられるようになってきたが、われわれの経験した、術前に ^{99m}Tc 骨シンチグラフィー、 ^{67}Ga シンチグラフィーを施行した神経芽細胞腫20例についての検討と、RI検査の有用性についてのである。

12. 甲状腺・上皮小体腫瘍のRI診断

——特に ^{201}Tl シンチグラフィーについて

小林 克 横沢 保 菅谷 昭
宮川 信 牧内 正夫 (信大・2外)

われわれは、甲状腺および上皮小体腫瘍に対し、腫瘍親和性アイソトープを用い、その診断等の向上につとめているが、今回は ^{201}Tl シンチグラフィーの有用性について検討したので報告する。甲状腺腫瘍に対する ^{201}Tl シンチグラフィーでは、甲状腺癌の78.9%に陽性像を示し、悪性リンパ腫では全例が陽性像を示した。腺腫では25.0%が陽性像を示したが、陽性像を示したものはすべて比較的分化度の低い腺腫であり、手術適応となることより、 ^{201}Tl シンチグラフィーは甲状腺腫瘍の手術適応の決定に有用な検査法であるといえる。つぎに、上皮小体腫瘍に対する ^{201}Tl シンチグラフィーでは、癌が2例、腺腫が6例、過形成が5例の計13例中11例が陽性像を示した。陰性例の2例は1例が腺腫、1例が過形成であり、それらの重量は0.3g、0.1gと非常に小さいものであった。上皮小体腫瘍17個中、触診では8個が触知可能で、従来使用されている ^{75}Se のシンチグラフィーでは8個中2個が陽性像を示したのに対し、 ^{201}Tl シンチグラフィーでは17個中12個が陽性像を示した。甲状腺と上皮小体腫瘍が重なっている場合には、 ^{201}Tl シンチグラフィーのみでは部位診断が困難であるので、 ^{201}Tl と ^{99m}Tc のシンチグラフィーを行い、減算処理 subtraction法を行うことにより明確な像を得ることができた。

これらのことより、甲状腺および上皮小体腫瘍に対して ^{201}Tl シンチグラフィーは非常に有用であり、今後さらに応用されるものと思われる。

13. ^{99m}Tc -PYP 心筋シンチグラムよりみた各種薬剤の心筋梗塞拡大阻止に関する実験的研究

阿部 俊也 南 博 赤羽 伸夫
小林 泰彦 清見 定道 高橋 一
甘利 秀夫 木村 一博 高梨 睦子
永井 義一 山沢 増宏 野原 義次

(東京医大・2内)

村山 弘泰

(同・放)

雑種成犬63頭を使用して心筋梗塞を作成し、それらに各種薬剤を投与して ^{99m}Tc -PYP心筋シンチグラム像より算出した心筋梗塞範囲を比較検討した。

<方法> 心筋梗塞は冠状動脈前下行枝を対角枝下部で結紮して作成した。そして、各種薬剤即ちNiludipine (A, B), Nifedipine, CoQ₁₀, Hyaluronidase, Propranololのいずれかを結紮直後より7日間投与した。結紮7日後に ^{99m}Tc -PYPを20mCi静注し、1時間後に心臓を摘出して直ちに心臓正面、左側面、心輪切り心筋シンチグラムを撮影した。そして、これらのシンチグラム像よりM, X, Y, Zの4方法を用いて、心筋梗塞範囲を算出した。

<成績> M, X, Yの各法においてNil. A群, CoQ₁₀群, Prop. 群では統計学上、有意な心筋梗塞範囲の縮小を認めた。

<考案ならびに結語> ^{99m}Tc -PYP心筋シンチグラムより心筋梗塞範囲を正確に測定することは困難であり、また犬の場合冠状動脈を同じ部位で結紮しても常に同程度の心筋梗塞を作成し得るとは限らず、さらに極端な場合には、冠状動脈を結紮したにもかかわらず心筋梗塞を作成し得ない場合もある。

それゆえ、このような事実と他のパラメーターをも合わせてこれらの薬剤の効果を判定しなければならないと考えられる。